+記　入　日　2018 年　1　月 12　日

１．概　要

実践団体名	南阿蘇村立南阿蘇中学校		
連絡先	０９６７－６７－００３０		
プランタイトル	プロジェクトM（MINAMIASO）～守ろう！自分の命・みんなの命～		
プランの対象者※1	中学生	**対象とする災害種別**※2	地震

※1　別紙「記入上の留意点」の1．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※2　別紙「記入上の留意点」の2．項目から1つ選択し、記入してください。

【プランの目的・ここがポイント！】

平成２８年４月に起こった熊本地震では、今までに経験したことのない地震を二度も経験した。多くの生徒が被災し、避難所生活を余儀なくされた中でも自分たち中学生ができることはないかと積極的にボランティア活動に出向いた。そういった経験をする中で、避難所運営や地震直後の対応で自分たちにもっとできることがあったのではないかと考えた。そこで積極的に共助に参加するための知識や技能を身につけるために、避難所運営訓練を中心とした防災教育に取り組んだ。避難所生活や車中泊を体験した生徒たちだからこそ、どのようにすればよりよく避難所を運営することができるか実体験をもとに活動を工夫した。

【プランの概要】

○災害時、積極的に共助に参加する生徒を育成することを目的としたプラン
・避難所体験をした生徒が主体的に考えて運営する避難所運営訓練（リアルＨＵＧ）
・避難所を運営するために全９教科で実施したスキル学習（防災教育基礎講座）
・エコノミークラス症候群を解消するための運動としての「くまモン体操」の推奨

【期待される効果・ここがおすすめ！】

・実体験をもとに行う避難所運営訓練では、中学生ならではの様々なアイデアの発見が期待される。
・防災教育基礎講座を実施することで、担当者の負担軽減、職員の防災に対する意識向上、生徒が楽しく学習することが期待される。
・生徒が避難所を運営することによって、状況を判断し、主体的に行動する生徒が育成できる。
・くまモン体操を踊ることで血行が良くなりエコノミークラス症候群の予防になる。また、楽しく踊ることで避難所が笑顔で溢れる。

２．プランの年間活動記録（2017 年）

	プランの立案と調整	準備活動	実践活動
4 月	年間計画立案 プランの作成		
5 月			
6 月			生活安全委員会による校内安全点検
7 月			
8 月	被災・復興マップの作製		地域の危険箇所の写真撮影、地域の方への聞き取り
9 月	全校防災学習（防災の日）		学習成果発表会に向けた現地学習、まとめ、発表準備 生活安全委員会による校内安全点検
10 月	学習成果発表会		学習成果発表会にて各学年の発表
11 月	全校防災学習		村消防団女性分団分団長の講話 避難所運営ゲームＨＵＧの実施
12 月	自衛防災訓練 全校防災学習 リアルＨＵＧ		生活安全委員会による校内安全点検 避難所運営訓練の準備 避難所運営訓練の実施
1 月	全校防災学習（現地学習）		トレンチ調査（活断層調査）現場の見学、講話
2 月			
3 月	今年度のまとめ、次年度の計画立案		

３．実践したプランの内容と成果

【実践プログラム番号：　１　】※3

タイトル	全校防災学習（防災の日）
実施月日（曜日）	平成２９年９月１日（金）
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：古賀　元博 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	２５分
プログラムのカテゴリ、形式※4	８．その他学校内での時間
活動目的※5	６．防災に関する知識を深める
達成目標	防災の日が制定された意味を知り、防災意識を高める
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○全校に向けての講話 ・防災の日制定の意味 ・災害への備え方 ・大陸間弾道ミサイル発射時の対応について
準備、使用したもの **・人材** **・道具、材料等**	説明用プレゼン
参加人数	中学生２５５名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 様々な防災に関する日に合わせて防災意識を向上させる話ができたことは普段から災害に備える生徒の育成につながった。 【課題】 実体験を生徒や教師が話す機会を設けることができなかった。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　２　】※3

タイトル	防災教育基礎講座（社会）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	2 年 3 組教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：小島正明　土田正宣 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習
活動目的※5	８．防災意識を高める
達成目標	「釜石の奇跡」から学ぶ
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	東日本大震災の被害状況確認 「釜石の奇跡」について 釜石の小中学生のとった行動　映像（DVD）を通して 避難の三原則を学ぶ まとめ　感想記入
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	パソコン・プロジェクター DVD　「釜石の奇跡」NHK エンタープライズ 南阿蘇村防災マップ シール 感想記入用紙
参加人数	１回目　３０　人、２回目　２５人、３回目　１０　　人
経費の総額･内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 釜石の小中学生のとった避難行動を、映像を通して学習した。「避難の三原則」を一つずつ確認することで、防災意識を高めることができた。特に防災マップの想定を「信じず」にできる限りのことをした同年代の行動に驚嘆していた。昨年の熊本地震の際の自分たちと重ねて、「自分の命は自分で守る」ためにどう行動すべきか考えることができた。 【課題】 本校は山間地域にあることもあり、津波災害について意識は薄い。あくまでも津波は例であって、「避難の三原則」はどんな災害であっても役に立つことを、繰り返し話していく必要がある。
成果物	なし

【実践プログラム番号：　３　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座（英語）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	２年１組教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：中村 朋子、井 美奈帆、四海 ゆき 酒井 智子、Benjamin 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	６．防災に関する知識を深める
達成目標	災害時に必要だと思われる英語表現を知り、使うことに慣れる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	災害時に必要だと思われる表現を「被災時」「体調」「避難所」の３つのカテゴリーに分け、カテゴリーごとに音読練習。その後、練習した表現をカテゴリーごとに色分けしたカードに書いて、意思疎通がとれないなど、何らかの理由がある状況でも使えるように準備した。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ワークシート 画用紙 ペン
参加人数	１回目　１９人、２回目　２１人、３回目　３１人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・子どもたちの中で他を助けようという意識が深まったこと ・多用できる表現を学び、使い慣れることができたこと 【課題】 ・本講座を受講した全ての生徒が、覚えた表現を実際に使用する場面は設定できなかった。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　４　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座（音楽）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	音楽室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：西村 祐子 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	手遊び歌や簡単な手話を入れた歌唱活動、またボディーパーカッションを取り入れて心と体をほぐすことができるようになる。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	１　本時の目標確認 ２　貨物列車じゃんけん ３　手遊び歌 ４　簡単な手話を覚える「ビリーブ」 ５　まとめ「幸せ運べるように」より
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ワークシート ＤＶＤ（「幸せ運べるように」）
参加人数	１回目　３６人、２回目　２５人、３回目　２６人
経費の総額･内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・ピアノや楽器などがなくても音楽が楽しめることが実感できた。 ・簡単な手話を習得することができた。 ・小さい子どもや家族、友達にも広めていこうという意識が高まった。 ・ボディーパーカッションで、アンサンブルする喜びを味わうことができた。 【課題】 ・短い時間だったので、活動が多すぎて、一つずつの体験時間が短くなってしまった。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　５　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座（国語）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：前川 恵、髙宗 洋、坂口 美咲 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	避難生活のストレスケアマネジメントの実施 読み聞かせの際の実践的な技術を身につける
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・読み聞かせによる心のほぐし方についての説明 ・読み聞かせの際の導入方法について知る ・読み聞かせの際の導入方法を実践してみる ・読み聞かせの鑑賞を行う ・グループ毎に読み聞かせの実践を行う
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・読み聞かせの目的や技術に関するプリント（個人作成） ・読み聞かせ導入動画の鑑賞 ・絵本
参加人数	１回目　　３０人、２回目　３０人、３回目　３０人
経費の総額･内訳概要	なし
成果と課題	【成果】読み聞かせを特別なものと感じず、楽しいレクレーションとして捉える事ができる人が増えた。また、実際に読み聞かせ導入の際のアイディアを出し合うことで、いざという際の、様々なストレスケアの方法について考えることができた。 【課題】実際の震災の場面では、絵本などが用意されていない場合が多いため、多方面からの協力などにより、読み聞かせ用の本を確保することが必要。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　６　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座（数学）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	３年１組教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：北原 賢二、池田 昌史、廣島 篤 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	数学のパズルを知り、災害時等で利用する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	数学のパズル（①数字をブロック字体にして、より狭い面積の中におさめる活動②１～９までの数字の間に＋、―を入れて１００にする活動）を実際に解き、いろいろな見方、考え方を経験させる。
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ブロック字体の数字 ブロックの方眼紙 紙とペン
参加人数	１回目　３８人、２回目　３９人、３回目　４２人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・よりよい解答がないかをしっかり考えることができた ・自然に周りと協力する活動になっていた 【課題】 ・災害時を考えると、①の活動は準備が必要になるので、適していなかった
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　７　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座（美術）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	各教室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：後藤　香 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	避難所でのプライベートスペースを創り出すミニテントを作る
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・プリントを元に制作手順説明、必要物の配布 ・一つ一つの手順毎にやって見せながら制作をさせる ・近いところにいる人で協力して制作させる
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・新聞紙 ・テープ ・はさみ
参加人数	１回目　２６　人、２回目　１３　人、３回目　１０　人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】新聞紙の活用の幅は広がった。細く巻くことで強度が増し、それらを組み合わせることで様々な枠ができることが分かったと思う。 【課題】基本の新聞紙を細く巻くことがとても苦手な生徒が多くいた。手伝うことが必要であった。時間内に終わらない回もあった。
成果物	ミニテント

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　８　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：境　吉親(保体)、荒牧亜紀子(養護教諭)、 廣津俊英(保体)、中野恵三(保体)、 藤野智子(スクールカウンセラー) 所属・役職等：南阿蘇中学校、阿蘇教育事務所（ＳＣ）
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	被災時・避難時にストレスを軽減するための方法を身につけるため簡単なストレスマネジメントの方法を知り、使えるようになる
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	１　本時の目標確認 ２　日常のイライラ尺度、ストレス尺度の測定 ３　ストレスの仕組みについて知る ４　コーピング法、リラクセーションの方法 ①エコノミークラス症候群予防体操 ②１０秒間呼吸法 ③ストレッチ＆マッサージ ④「くまもんとヨーガ」 ５　まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	ワークシート ＤＶＤ（「くまもんとヨーガ」）
参加人数	１回目　２５人、２回目　４１人、３回目　２８人
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・ストレスの仕組みについて理解が深まったこと ・簡単なストレスマネジメントの方法を体験して習得できたこと ・家族や友達にも広めていこうという意識が高まったこと 【課題】 ・体験の時間が短かったことと体験後のストレス尺度の測定ができなかったこと
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　９　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座（理科）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	理科室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：　担当者 氏　　名：緒方友紀、山下桂志郎 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	阿蘇火山の成り立ちや噴火の仕組みなどを、実験を通して学び、噴火のときに身を守るための知識を身に付ける。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	１　本時の目標の確認とグループ分け ２　実験（５グループで交代） ①コーラとメントスで噴出実験 ②炭酸水素ナトリウムと酢で噴火モデル実験 ③水槽と牛乳で火砕流の流出実験 ④小麦粉と風船でカルデラ実験 ⑤火起こし器で火起こし体験 ３　まとめ
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・コーラ・メントス・炭酸水素ナトリウム・酢・水槽・牛乳・ペットボトル・小麦粉・風船・火起こし器
参加人数	１回目　　１６人、２回目　２９人、３回目　３２人
経費の総額・内訳概要	１２０００円程度（３回分の材料費）
成果と課題	【成果】 ・カルデラの仕組みを理解し、自分たちが住む南阿蘇村がカルデラの中にあることに驚いた生徒が多かった。 ・火山に対する興味と関心が高まった。 【課題】 ・阿蘇火山のマグマの性質や噴火の頻度など詳しい内容は火山博物館の学芸員の方などに話を聞く必要がある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１０　】※3

タイトル	防災教育　基礎講座（技術・家庭）
実施月日（曜日）	１１月２０日、２９日、３０日
実施場所	技術室
担当者または講師	担当者・講師等の区分：　担当者 氏　　名：古賀　元博 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３コマ×５０分（同じ内容を生徒を変えて３回実施）
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間　　５．教科学習　　１３．体験学習
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	非常時に役立つ防災グッズの作成を行う。 防災グッズが役立つものか評価する。
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○食用油でろうそく作り ○早ゆでパスタやカップ麺を水で調理 ○新聞紙を使ったスリッパづくり ○ペットボトルを加工した食器づくり ○キッチンペーパーでマスク作り ○ポリ袋でポンチョ作り
準備、使用したもの・人材・道具、材料等	・食用油、新聞紙、ペットボトル、カップ麺、早ゆでパスタ、割り箸、紙コップ、ポリ袋、キッチンペーパー
参加人数	１回目　　３５人、２回目　３８人、３回目　４３人
経費の総額・内訳概要	１００００円程度（３回分の材料費）
成果と課題	【成果】 ・キッチンペーパーマスク、ポリ袋のポンチョ、新聞紙スリッパは実際に利用できることが分かった。 【課題】 ・ペットボトルでフォーク、スプーンを作ったが、強度が足りないため使用できなかった。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１２　】※3

タイトル	全校防災学習
実施月日（曜日）	１１月１３日（月）、１７日（金）
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：古賀　元博 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	５０分×２
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間
活動目的※5	６．防災に関する知識を深める
達成目標	将来の南阿蘇村を守るための防災知識を身につけよう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	○全校一斉の講話 ・南阿蘇村消防団 女性分団分団長の講話 ・クイズ形式で防災に関する問題 ・クロスロードゲーム ・地域の災害や環境特性についての説明
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	○プレゼンテーション
参加人数	２５６名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ・村の消防団に来ていただくことができ、地域の防災組織の活動について話を聞くことができた。 【課題】 ・村の人材を有効に活用できる体制づくりをしていく必要がある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１３　】※3

タイトル	避難所運営ゲーム（ＨＵＧ）
実施月日（曜日）	１２月５日（火）
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：古賀　元博 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	１１０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間
活動目的※5	６．防災に関する知識を深める
達成目標	避難所をよりよく運営する方法を考える
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	全校生徒を２４班に分け、小グループを作る（事前） 各班にＨＵＧカード、広用紙を配布する。 担当者の進行のもと、情報カードを読み上げる
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・ＨＵＧカード ・広用紙
参加人数	２５６名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 ２年目の取組で、昨年経験したことがある３年生が中心となって活動することができた。 【課題】 会場図の広用紙のサイズが広すぎたので調整する必要がある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１４　】※3

タイトル	避難所運営訓練（リアルＨＵＧ）
実施月日（曜日）	１２月２１日（木）
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者 氏　　名：古賀　元博 所属・役職等：南阿蘇中学校
所要時間または「コマ数×単位時間」	３時間
プログラムの　カテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間
活動目的※5	４．災害を想定した訓練
達成目標	避難所を上手に運営する
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・緊急地震速報の報知音で訓練開始⇒避難所の設営（運営担当） ・食事の配給、避難所受付、様々なイベントの対応 ・避難者の個別の状況への対応
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	・緊急避難グッズ ・基礎講座で使用した材料 ・昼食用非常食
参加人数	２５６名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 運営者役の生徒が課題に対して主体的に行動することができた。 【課題】 訓練のゴールをどのように設定するかを検討する必要がある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１５　】※3

タイトル	防災教育現地学習（被災・復興現場）
実施月日（曜日）	１０月２４日（火）
実施場所	長陽大橋、阿蘇大橋崩落現場
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者、講師 氏　　名：古賀　元博 所属・役職等：南阿蘇中学校、国交省熊本復興事務所
所要時間または「コマ数×単位時間」	１１０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間、９．校外学習
活動目的※5	３．災害に強い地域をつくる
達成目標	熊本地震の復興現場を現状を知ろう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・教室で説明（国交省九州地方整備局熊本復興事務所より） ・阿蘇大橋崩落、復興現場見学、説明 ・長陽大橋復興現場見学、説明 ・まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：国土交通省　九州地方整備局　熊本復興事務所所員
参加人数	３０名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 被災後、どのように復興へと進んでいるのか現場見学と説明を受けることができ、理解が深まった。 【課題】 見聞きしたいことが多く、時間の確保が必要だった。
成果物	南阿蘇村　被災・復興マップ

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１６　】※3

タイトル	防災教育現地学習（被災・復興現場）
実施月日（曜日）	１０月２０日（金）
実施場所	南阿蘇村（旧久木野地域）
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者、講師 氏　　名：古賀元博、藤岡孝輔 所属・役職等：南阿蘇中学校、南阿蘇村前教育長
所要時間または「コマ数×単位時間」	１１０分
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間、９．校外学習
活動目的※5	３．災害に強い地域をつくる
達成目標	地域の過去の災害について知り、これからの防災学習に生かそう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・教室で講話 ・熊本地震による被災場所の見学、説明 ・昭和の白川大水害の被災場所の見学、説明 ・まとめ
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：南阿蘇村　前教育長　藤岡孝輔
参加人数	３０名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 過去の災害の経験や熊本地震対応で苦慮した面を伝えてもらった。未来を担う生徒が災害に対応できる基盤作りをどのようにすればよいかということを提起してもらった。 【課題】 災害経験者等、防災教育を後押ししていただける方のリストアップ、情報整理をする必要がある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3．項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4．項目から1つ選択し、記入してください。

【実践プログラム番号：　１７　】※3

タイトル	くまモン体操で心も体も元気♪（リアルＨＵＧ内の実践）
実施月日（曜日）	１２月２１日（木）
実施場所	体育館
担当者または講師	担当者・講師等の区分：担当者、講師 氏　　名：古賀　元博、くまモン 所属・役職等：南阿蘇中学校、熊本県職員
所要時間または「コマ数×単位時間」	１５分
プログラムのカテゴリ、形式※4	４．総合的な学習の時間
活動目的※5	１．遊び・楽しみながらの防災
達成目標	くまモン体操を踊ってエコノミークラス症候群を解消しよう
実践方法・進め方（箇条書きまたはフロー）	・くまモンを笑顔で迎える ・くまモンと触れ合う ・くまモンとくまモン体操を歌って踊る ・くまモンと写真撮影する
準備、使用したもの ・人材 ・道具、材料等	人材：くまモン
参加人数	２５６名
経費の総額・内訳概要	なし
成果と課題	【成果】 くまモンからパワーと笑顔をもらった 避難所が明るくなり、体も動かすことで元気になる 【課題】 やんちゃなくまモンは予定外の行動をすることがある。
成果物	なし

※3　本報告書に掲載するプログラム数に制限はありません。また、1 つのプログラムの記載ページ数、各項目の字数等の制限はありません。ただし、枠線の中に記載し、改ページ等は適宜挿入してください。
※4　別紙「記入上の留意点」の3. 項目から選択し、記入してください。（複数選択可）
※5　別紙「記入上の留意点」の4. 項目から1つ選択し、記入してください。

４．苦労した点・工夫した点

プランの立案と調整で苦労した点工夫した点	・できるだけ多く現地学習や体験学習を盛り込もうと思ったが、学校行事や授業の関係で調整を行うのが大変だった。 ・現地学習をする際に交通手段の確保に苦労した。幸いスクールバスを利用することができたが、本校が所有するバスでは全校生徒を乗車させることができず、予算の都合上全校生徒で移動することができないこともあった。 ・昨年度は手探り状態で防災学習をスタートしたが、本年度は昨年度の学習をもとに取組を行ったのでそれほどの苦労はなかった。次年度以降どのように継続し、担当者が異動した場合にこれまでの防災教育が継続できるのか検討する必要がある。
準備活動で苦労した点工夫した点	・開校２年目ということもあり、地域と連携するための基礎ができていなかった。そのため、全校や各学年で活動する際に人材の発掘、協力の依頼、日程調整をするところが苦労した。本年度の取組で構築したネットワークを次年度以降活用できるような組織作りをする必良がある。
実践に当たって苦労した点工夫した点	・実践においては、震災の心の傷がある中でどのように防災教育と向き合わせるかということが苦労した点であった。見た目では分からない心の傷や不安を未だ持っている生徒もおり、緊急地震速報を使った訓練や全校防災学習での震災時の映像など個別の配慮をしながら行った。 ・防災学習において、知識を教えるための学習ではなく、より実践的な学習になるように工夫した。本年度実施した「基礎講座」のように体験・実験を通してより実践的な力をつけるような学習にした。 ・「震災を思い出してきつい」と思うような防災教育ではなく、「防災って結構楽しい」と思えるような学習内容の工夫をした。講話でも１時間話をするのではなく、クイズやゲームを交えながら自分たちで考える場面を設けながら実施した。 ・被災場所見学では自分が被災した場所に近いところもあり、事前に配慮が必要なこともあった。

５．他の団体、地域との連携

協力・連携先の分類	団体名、組織名	協力・連携の内容
学校・教育関係・同窓会組織	熊本大学減災センター 南阿蘇中学校学校運営協議会	現地学習（活断層見学） 学校安全委員会設立準備
保護者・ＰＴＡの組織		
地域組織	南阿蘇村消防団女性分団	女性消防団の取組紹介（講話）
国・地方公共団体・公共施設	国土交通省九州地方整備局熊本復興事務所	熊本地震復興現場見学、講話
企業・産業関連の組合等		
ボランティア団体・ＮＰＯ法人・ＮＧＯ等	ＮＰＯ法人さくらネット	防災学習用ディジタルカメラの支援
職業、職能団体・学術組織、学会等		

６．成果と課題（実践したプラン全般について）

成果として得たこと	・昨年度は統合１年目で手探りの防災教育だったが、２年目の本年度は防災教育の基礎づくりができ、学習プログラムの系統性ができたので担当者が異動になっても継続して取り組めるような体制づくりができた。 ・生徒が主体となって行う避難所運営訓練（リアルＨＵＧ）を実施することで、生徒の防災教育に対する意識が高まり、避難所運営希望者が年々増加している。 ・熊本地震からの復興をテーマにした各学年の取組を行うことで、ふるさとに誇りを持ち、ふるさとを好きだという生徒が増えた。 ・災害復旧工事を行っている国土交通省九州地方整備局熊本復興事務所の協力を得ることができ、被災後復旧に向けての取組を見学後に整理し、学習成果発表会で全校生徒、見学に来た保護者へ紹介することができた。 ・熊本大学減災センターの協力で、村内にある断層を見学することができ、理科の学習と絡めながら地層の学習を行うことができた。 ・すべての教科で防災・減災を意識した取組ができた。
全体の反省・感想・課題	・総合的な学習の時間１５時間を確保して実施したが、学校現場としては時間の確保が課題である。内容を精選し、短学活などでも取り組める内容と１時間単位で学習を行うものとを精査していく必要がある。 ・全校防災学習は毎年同じ内容、講話になってしまうので３年間を１サイクルと考え、学習内容を考えていく必要がある。 ・地域の方との交流が面識のある方に限られる傾向にあったので、来年度以降は少しずつ協力いただける人材を増やしながらリストアップ、整理をしていきたい。 ・外部機関と連携する際に、打ち合わせをする時間の確保が難しく、十分に活用することができなかった。本年度のつながりを大切にし、来年度以降に生かしていきたい。
今後の継続予定	・避難所運営訓練の取組は継続して行っていく。 ・学校運営協議会と連携し、防災教育応援団のメンバーを増やし、地域と共に防災教育を行っていく体制作りを行う。 ・熊本地震の被災・復興現場は日を追うごとに変わっているため、復興に向けてどのように変化しているのかを継続して現地学習、マップへの整理を通してまとめていきたい。

７．自由記述欄　※6

※6　自由記述欄は、防災教育の実践で得られた知見、防災教育の普及に関わる提案等を盛り込んでください。また、前頁までの記述に不足した事項、参考資料、写真等を自由にご記入ください。なお、3ページ以内厳守でお願いします。

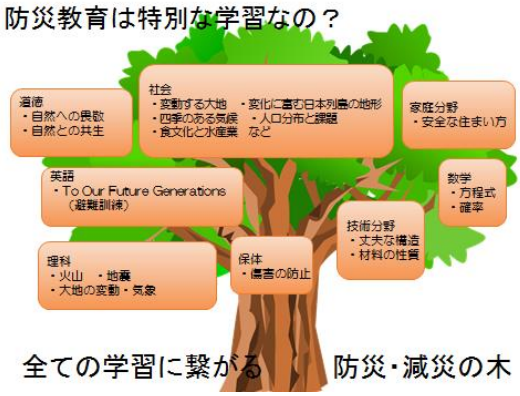
【全教科で実施した防災教育基礎講座】

【前教育長　藤岡先生と現地学習】

【阿蘇大橋崩落現場見学】

【国交省九州地方整備局熊本復興事務所　現地学習と復興状況説明】

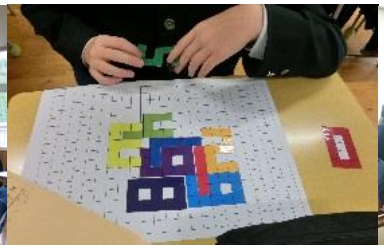
【女性消防団　分団長の講話】



（自由記述： 1／3）

【防災教育基礎講座】

Aグループ	1	2	3
	防災意識を高めよう	数学パズルを考えよう	Let's try 英会話 in an emergency
	社会	数学	英語
	小島・土田	北原・池田・廣島	井・中村・酒井・四海・ベンジャミン
	東日本大震災で岩手県釜石市の小中学生のとった行動は、「釜石の奇跡」と呼ばれています。どんな意識を持ち、どんな行動をしたのでしょう。学んでいきましょう。	数学パズルを解いたり、つくったりして、脳のトレーニングを行います。 例）１本動かして式を完成させよう。 3-8=5	避難所には多くの人が集まります。しかし、その中には多くはなくとも諸外国の方々もおられます。出会った人に声を掛けられるように、非常時に役立つ英語や他の国の言葉を学んでいきましょう。



Bグループ	4	5	6
	リラクゼーション	音楽で心と体をリラックス	ストレスケアマネジメント
	保健体育	音楽	国語
	境・中野・廣津・荒牧	西村	前川・髙宗・坂口
	○「ストレスマネジメント」って何？について学習しながら、イライラしたり、何も手につかなかったり、ストレスを感じたときにいつでもどこでも自分１人やペアでできる簡単リラックス法を身につけます。	歌を歌ったり、手遊び歌をしてみたり体をほぐしましょう。体を使って音楽を楽しみましょう。	避難所にいる人たちの不安やストレスを軽減するためのスキルを学びます。 （例）読み聞かせ・手遊び・クイズ…

Cグループ	7	8	9
	身近な日用品で、簡単な防災グッズを作ろう	プライベートスペース作り	阿蘇の成り立ちを知ろう
	技術・家庭	美術	理科
	古賀	後藤	緒方山下
	身近なもので簡単にできる防災アイテムを作ります。事前に備えておくもの、いざというときに作れるもの、様々あると思います。実際に作ってみてホントに使えるか！？検証してみましょう。	頭部がすっぽり入るくらいのミニテント（ティピー）を作ります。災害時にちょっとしたプライベート空間になり、応用も利きます。新聞紙とテープのみで作ります。	いろいろな実験を通して、身近な阿蘇火山についてもっと詳しく学びます。火山の成り立ちや火砕流の仕組みなど、実験を行いながら学びましょう。

（自由記述： 2／3）

【避難所運営訓練（リアルＨＵＧ）】

緊急地震速報の報知音でリアルＨＵＧスタート　防災頭巾をかぶって避難所の体育館へ

避難所では非常食の配給に追われた　メニューは「救給カレー、救給根菜汁」など

受付は混雑　運営者は避難者名簿の作成に追われる　その中でも次々と避難者から要望が

イベント発生「光や音が気になって安眠できない」と避難者からクレームが
そうだ！基礎講座で学んだ「ミニテント」を作成し、避難者に配付しよう

避難所を訪問したくまモン　　受付をしている運営者を労う　くまモン体操をみんなで踊る

（自由記述：３／３）